

令和2年度 第2回白馬村図書館協議会 議事要旨

日時：令和3年3月12日(金) 13:30～15:00

場所：白馬村保健福祉ふれあいセンター 学習室

区分	氏名	所属	出欠
委員	富山 正明	白馬村社会教育委員長	○
	横川 秀明	白馬村公民館長	○
	岩崎 伸子	白馬北小学校／てぶくろの会	○
	篠崎 千恵	白馬南小学校	—
	山崎 英俊	白馬中学校	○
	高橋 英子	公募委員	○
	長島 律子	公募委員	○
	澤 清美	公募委員	○
	山下 慎司	公募委員	○
アドバイザー	篠田 尚利	県立長野図書館	○
	朝倉 久美	県立長野図書館	—
	小澤 多美子	長野県文化財・生涯学習課	—
事務局	関口 久人	生涯学習スポーツ課長兼図書館長	○
	松沢 由美子	白馬村図書館司書	○
	大坪 裕子	白馬村図書館司書	○
	大熊 大智	白馬村図書館司書	○
	山岸 由美	白馬中学校図書室司書	○
	海端 弥生	白馬北小学校図書室司書	○
	渡邊 宏太	生涯学習スポーツ課生涯学習係長	○

1. 開会

関口生涯学習スポーツ課長兼図書館長が開会を宣言した。

2. あいさつ

(富山委員長)

新型コロナウイルス感染症の影響で外国人観光客が少なく、静かな冬となってしまった。村内でも感染者が相次いだが、なんとか収束した。多くの観光客が多く訪れて賑やかな白

馬村になることを願っている。

図書館協議会については、前回の会議で計画策定に関する意見が出され、早い時期に第2回の会議を開催するという予定であったが、この時期にずれ込んでしまった。

本日は複合施設に関する方針の見直しと、今後の図書館運営の基本計画（案）に対して、積極的にご意見をいただきたい。

3. 会議事項

(1) 白馬村図書館等複合施設について

(事務局)

会議の開催が当初の予定から大幅に遅れてしまったことをお詫び申し上げます。

資料1「白馬村図書館等複合施設の候補地について」に基づき事務局から説明した。

4月12日(月)19時からウイング21で住民説明会を開催する予定であることを補足した。

(委員長)

この1年間、住民や議会も含めて村の中でもいろいろな動きがあったが、結果として候補地を見直すことになった。委員の皆様の意見を伺いたい。

(委員)

基本計画で候補地を選定した際に、官民連携の視点でD候補地を高く評価していたが、D候補地を推奨する民間事業者は1者だけであった。なぜそうなったのか。誰がどういう方法で評価を行ったのか。

基本構想・基本計画の策定は業者に委託しているが、いくらくらい支払ったのか。無駄ではなかったのか。

(事務局)

平成30年度と令和元年度の2年間で、それぞれ500～600万円程度をお支払いして、基本構想・基本計画の策定を業者に委託した。

候補地の評価は、村と委託業者で案を作成し、有識者会議の意見等を参考にして最終的に村で決定した。

駅と言ってもどこまでを範囲に含めるかによって考え方が変わってくる。駅の東側やロータリー周辺も含めれば民間事業者として興味を持つ案件になるかもしれないが、財政的にも厳しい状況にあり、今回は駅舎+駐車場という範囲で民間事業者から意見を聴取した。

候補地に関しては見直すこととなったが、候補地以外の部分でこれまで意見を聞いてきた内容は、今後の検討にも活かすことになるし、無駄になったということではないという認識である。

(委員長)

基本構想・基本計画に関しての業務を遂行してもらったことは間違いなく、候補地は見直しとなったが、計画全体が白紙となったわけではなく、中身についてはこれまでの議論を土台にしていくということなので、無駄ではないということである。

今回問題になったのは候補地選定に関するプロセスで、よくわからないまま決まってしまったということはあるが、事務局で再検討したことで軌道修正できたということでは良かったのではないか。

候補地のことをきっかけに新聞に掲載されるなど地域で話題になり、複合施設のことを公になったという観点で考えることもできる。これまでは「新しくつくるらしい」という程度の話で、どこに何ができるということまで真剣に考える方があまりいなかったが、関心が高まり、いろいろな意見が出てくるようになった。熱が冷めないうちに議論を深めたり盛り上がりやすければ、結果的に良い施設につながるようになると思う。

過ぎたことを蒸し返しても何も生まれなため、「何が問題だったのか」ということを明確にして、何が望まれているのかという議論に転換してほしい。

(委員)

住民説明会について、多くの方が参加できるように複数回にわたって開催することはしないのか。会場についても、フラットな目線で意見を交わしやすい多目的ホール等の方が良いのではないか。

(事務局)

説明会については、ケーブルテレビで放映することや、広報はくば・ホームページでも内容をお伝えしていくため、1回のみで開催とさせていただきたい。

会場については、他の事業で連日多目的ホールを使う予定があることや、ある程度人数が増えても密にならないということでウイング 21 ホールにした。

今後、進捗に応じた説明や意見交換をしていく際には、昼間・夜間、平日・休日など様々な日時に設定していきたい。

(委員長)

ウイングのホールで開催する場合でも、参加者が意見を言いやすいような工夫をしてほしい。

今後の状況報告や意見交換については、できるだけ多く開催し、いろいろな人に参加してもらえるようにしてほしい。

(委員)

複合施設基本計画の候補地比較表に「主要地からの距離」とあるが、主要地とは何を指しているのか。

(事務局)

学校や役場、金融機関、スーパー等を指している。

(委員)

複合施設は、図書館に子育て支援ルームを付けるのか、子育て支援ルームに図書館を付けるのか、何をメインに考えているのか。図書館は無料で本が借りられて、子育て支援ルームも収入は限られるが、その状況でどこまでの施設ができるのか。図書館と子育て支援ルームの共存について疑問が残る。

候補地についても、A 候補地の場合は子どもが遊ぶスペースを確保できるのか。車の往来も多く危ないのではないか。

限られたスペースの中で、静かに本を読みたい人と、子どもたちの声が混じることになる。どちらかを優先させないとうまくいかないのではないか。

ターゲットを絞るのではなく、みんなが使う場所として考えると、幅広い世代が過ごしやすい環境というものは難しいように感じる。

(事務局)

どちらがメインというものではなく、過去の検討の中でも「交流を生み出す施設」という位置付けで考えている。それぞれの機能を別の場所に備えると、そこに用事がある人しか行かないが、良し悪しはあるとしても、複合化することで多様な人が集う場にした方がよいということが図書館施設検討委員会でも議論されてきた。

切り分けは必要となるが、子育て支援機能を目的に親子連れも来るし、図書館を目的にする人も来るし、それ以外の機能も含めていくことで様々な人が集まり、屋内も屋外も含めて居心地良く過ごせる場所というものを目指している。

外の遊び場のことも含めて、C 候補地を中心として、基本計画を見直していく中で意見をいただきながら確定していきたい。

(委員長)

図書館施設検討委員会で保育園や幼稚園の保護者会長も委員となり議論してきた中で、当時は子育て支援ルームを複合化するという話ではなかったが、子連れでも行きやすい、遊び場がある、集いやすい場所が欲しいという声が多くあり、図書館の建設にあたってでも考慮していく必要があるという話になった。図書館施設検討委員会ではそういった理由で木流公園もある C 候補地を推奨した。

当初のコンセプトとしては、山が見えて、子どもたちが外で遊び、館内で本を読む人がいて、テラスのような場所でくつろぐ人がいるといったイメージを持っていた。

基本構想を策定する段階で、子育て支援機能を複合化してきましようという話になり、「子育て支援ルームをくっつけましよう」というよりは、「子育て支援など複合的な機能を備えた施設をつくりましよう」という形に想っている。

(委員)

子育て支援ルームは、申し込んで利用する・預ける部分と、遊び場など自由に使える部分があると思うが、どう共存するのか。

(委員長)

複合施設として子育て支援機能を入れましょうという考え方であり、今の子育て支援ルームと同じ機能をそのまま続けるのか、違った形となるのかは、運営面も含めて今後議論していくことになる。

誰もが利用しやすい場所という視点で候補地を考えており、できるだけターゲットは広くしたいというのが現状の考え方だと認識している。

(委員)

候補地によっては実現できないこともあるように感じる。

図書館は施設があって、本があって、職員がいて、駐車場があれば良いが、子育て支援ルームも同じ場所でとなると、白馬らしく自然豊かな屋外で遊ばせたいとなると、C候補地が相応しいと思う。

(2) 白馬村図書館基本計画(案)について

資料2「第三次白馬村図書館基本計画(案)」に基づき事務局から説明した。

施設や予算など制約を抱えた中で、多くの人に運営に参加してもらえるような取組みを進め、新しい複合施設での交流につなげたいと考えている旨を補足した。

(委員)

5年間の計画として、新しい図書館の建設に向けての整合性・位置付けはどうか。

(事務局)

新たな図書館の詳細は引き続き検討しており、現時点で細かく記載するのが難しい状況である。新しい図書館の運営については、基本計画とは別に検討していくこととしたい。

複合施設のテーマは交流ということにしているため、現状の図書館でも、個人や団体などできるだけ多くの方々に運営に関わっていただけるような形にしたいと思い、各項目に内容を記載している。

(委員)

令和3年度の予算はどのような状況になっているか。

(事務局)

令和3年度予算については、新型コロナウイルスの影響もあり、新規事業は緊急性の高いもの以外は先送りし、前年度と比較して3%削減するということが全庁的な方針となっている。他の事業で削減したものがあため、図書館に関しては前年と同様に計上している。

令和3年度は、予算をかけずにできることを重点的に進めていくことになる。

(委員)

雑誌の配架が課題ということであるが、定額で複数の雑誌が読み放題のサブスクリプションモデルもある。電子的なものになってしまうが、可能であれば検討してほしい。

(委員)

一人あたりの貸出冊数を見ると、小谷村が多くなっている。数値の根拠がわからないが、小谷村図書館が地域に愛されているとしたら、参考にするべきこともあるのではないか。

(委員長)

分母が住民（人口）であれば地域に愛される図書館ということになるが、白馬村民でも小谷村図書館に行く人がいると聞く。そういった利用者の分も含まれているのであれば、分母が小さいため冊数が増えるということもあるかもしれない。

(委員長)

新しい図書館に向けた資料収集や体制整備について盛り込んだ方が良いと感じる。施設ができてから始めるのでは遅いため、今の図書館でできることはしていかなければならない。特に地域資料の収集方法や整理の仕方などは打ち出してもいいのではないか。具体的な数字までは難しいとしても、体制づくりなどは書けることでもあるのではないか。

(委員)

課題の中に蔵書計画を策定していないため選書や寄贈の方針が曖昧とあるが、その解決のための施策は記載があるのか。

(事務局)

27 ページに「資料収集方針・蔵書計画の策定」という記載をしているが、目標として令和7年度までにということではなく、できるだけ早くということ考えている。

その中で、新しい図書館の方針も含めて議論して反映させていくことを考えている。

(委員)

基本計画（案）を確定するまでのプロセスについて教えてほしい。

(事務局)

本日お聴かせいただいたご意見を取り入れ、準備ができ次第パブリックコメント（意見募集）を1か月程度行い、4月の定例教育委員会に諮って確定させたい。

(委員長)

各種数値目標の根拠はあるのか。

(事務局)

明確な根拠を有するものは少ないが、予算や他市町村の状況などを踏まえて設定した。

前回の会議で、アドバイザーとして参加していただいている県立長野図書館の篠田委員からも「数字にこだわりすぎてはいけない」という意見をいただいたが、様々な状況を考慮して必要に応じて見直すこともしていきたい。

(委員長)

新しい図書館に向けてどういった資料を揃えていくかということをも早めに検討して、蔵書計画に落とし込んでほしい。面積や冊数など規模的なものも関係してくるため、どう策定していくのかプロセスは難しいかもしれないが、早い段階で議論してほしい。

(アドバイザー)

数値目標を設定することで、数字が独り歩きしてしまう可能性がある。司書は一生懸命頑張っているけど、予算がつかず達成できない場合には、外からは「頑張っていない」という見え方・評価になってしまう。

また、計画の中には表れないことも多いが、数字につながるような活動、つなげ方といった部分をどう進めていくのか考えてほしい。

「すべての人に開かれ、寄り添う施設運営」や「多様な人々や団体等との協力・連携」といった中で、外国人が多いという状況も含めて、「村の人のための図書館」ではあるものの、白馬村の特徴を考えると外から来る人たちの目線も考えた方が良くと思う。沖縄県恩納村の図書館は、誰でも利用登録が可能で、利用者カードが思い出や記念になると言われている。新しい図書館に向けての検討事項かもしれないが、観光客にも来館してもらい村の情報を伝える、知ってもらうことも大切ではないか。

職員体制の部分で、予算的に厳しいというのは理解しているが、新館に向けて中心的に活躍してもらえる正職員の司書を採用して、その方を中心に取組みを進めてもらえると良いのではないかと思う。

(委員長)

新しい図書館に向けての活動としていろいろと検討していかなければならない。

中核となる職員、専任の館長を早い段階で採用して、その人を中心に今後のことも含めて図書館の中から動いていく体制づくりを進めていく必要がある。

4. その他

(委員)

広報はくばについて、毎月第3月曜日に発行されているが、各家庭に配布されるのは下旬となることが多い。通常の雑誌であれば、3月号であれば2月中に発行され、3月に広く読まれるという形である。発行日を考え直す（早く発行する）ことはできないか。

(事務局)

毎月中旬に発行して地区で配布されるため手元に届くのは下旬になるという認識で、役場では間に合うかどうか分からない情報は前月号に載せることとしているため、ご理解いただきたい。

5. 閉会

関口生涯学習スポーツ課長兼図書館長が閉会を宣言した。